

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300407		
法人名	社会福祉法人 一仁会		
事業所名	グループホーム天王園		
所在地	周南市大字大河内1109番2		
自己評価作成日	平成24年4月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1)利用者一人一人に生活に張りを持ってもらう為、当番制にしてその方の出来る事を出来る範囲で手伝ってもらおう。 2)音楽教室、押し花教室、手芸教室、お出掛け行事の協力でボランティアの活用。 3)メンバー17名による2ヶ月毎の運営委員会。1回はホームで開催して入所者と共に過す時間を作っている。 4)食事に対する個人対応。巻き寿司、餅つき等と一緒に作っている。 5)年2回の家族会、家族との日帰り旅行。</p>
--

<p>三食とも事業所で食事づくりをしておられます。栄養バランスに配慮され、利用者の好みも取り入れた献立をつくれ、季節感のある旬の食材を利用して職員が調理され、利用者は食事一連の作業の中で、一人ひとりできる事を職員と一緒にしておられます。調理の音や匂いで、食欲を高められるようにして、五感刺激への配慮もされています。行事食への工夫や、毎月、弁当を作って外出されるなど、食事が楽しめるように支援しておられます。多くのボランティア(詩吟、カラオケ、押し花、手芸、外出など)が来訪しておられ、利用者の活躍できる場面としても活かされ、交流しておられます。年1回の日帰り旅行では、家族とボランティアも参加しておられ、利用者は楽しみにされています。家族会(年1回)では事業所で作られた食事を一緒に食べたり、ゲームをして利用者と家族がともに楽しめるように支援しておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をホーム内に掲げ、共有し日々の業務に活かすように努めている。勉強会で理念の確認をし合っている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、月1回の職員会議で確認し共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの活用、地域行事への参加、近隣のスーパー・JA道の駅での買い物に多いに出掛け地域の人達と交わっている。	ボランティア（詩吟、カラオケ、押し花、外出、手芸）の来訪がある他、他施設である祭りや、カラオケ大会、チャリティーコンサート、食材の買い物に出かけたり、散歩の途中で言葉を交わしたり、中学生の1日体験の受け入れや、近くの小学校の一斉下校日に、校門の前に立ち、子どもたちに手を振って見送るなど地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での会合等で要請があれば認知症のお話をする事もある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し、評価が出た時は勉強会で話し合い改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解した上で、全職員が評価に取り組んでいる。管理者がまとめたものを閲覧できるようにし共有している。馴染みの関係が途切れないようにすることを課題として捉え、改善に取り組むよう努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会等で認知症について話し合ったり、ホームで利用者の方と交流を持ってもらう事で理解を深めている。利用者に対するサービス等を見ていただき意見をもらっている。	年6回開催し、利用者の状況や活動報告をして意見交換している。救命講習や成年後見制度について学んだり、草刈作業を一緒にしている。避難訓練への地域の人への参加の呼びかけなどについて話し合っている。	・会議録の記録方法の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営委員会のメンバーに参加してもらい意見を聞いている。協力体制が出来ている。	市役所の支所に担当課があり、運営推進会議の他、出向いて相談や情報交換を行い、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、台所、洗濯場等の施錠はしないでいつでも外に出られる様にしている。但し、頻繁に徘徊がある利用者が居られる時は例外。状況に応じた対応をする。日中ベッド柵を使用した時があり注意があった。	マニュアルがあり、勉強会で学び、職員は正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックには気をつけており、気になるときは管理者が注意している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で話し合っている。お互いに注意を合っている。入浴時アザが見つかった時は原因を考察している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で話し合っている。活用出来るように支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、不安や疑問に対しては理解・納得してもらえるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の勉強会で家族からの相談・苦情に対しては話し合い、協力して改善対策に努める。運営委員会でも提示し意見交換をしている。	面会時や電話、家族会(年1回)等で家族からの意見や要望を聞いている。毎月訪問している介護相談員が、利用者の苦情等を聞いている。出た意見は職員会議で話し合い、運営に反映させるように努めている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会で意見交換を行い反映させている。園全体の運営に関しては年1回園長より説明してもらう	職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。書類の様式を見直し、改善し、業務の効率化を図るなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取り組みがなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取り組みがなされている。	外部研修は段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供して、復命報告や資料が閲覧できるようにしているが、参加者は少ない。法人研修には月1回、1名参加している。内部研修は職員会議の中で行っている。	・研修機会の確保や内容の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問はなかなか困難であるが、研修会には当番で参加している。参加者は勉強会で報告をする。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかり傾聴し不安なくホームでの環境に馴染んでもらえる様に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から今までの状況を聞き、できる限り家族の意向に沿った支援が出来る様に意見交換をしている。しばらく毎日の訪問希望があれば受け入れている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、まず他の利用者、職員にどのような反応を示されるかを見極め、ホームに溶け込んでもらえる様に個人的対応をしながら落ち着いた生活をしてもらえる様に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や、洗濯物干し、たたみをしていただく。楽しくおやつや、食事を摂る事で仲間が側に居る事を感じていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族からの相談には速やかに応じ、面会に来られた時は家族でゆっくり過してもらえるように配慮する。家族会、日帰り旅行等で利用者を中心にした時間を共に過している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用されていた時の知人が来られた時等は遊びに行ってもらっている。いつでも知人の受け入れは出来ている。	家族の協力を得て、受診や買い物、日帰り旅行、葬儀への参加などの支援をしている。知人や同級生、親戚の訪問、訪問美容室との関わりの支援など、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自己主張が多くなりトラブルになる事もある。お互いの意見をしっかり傾聴し、個別対応して気分転換を図ってもらう。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に今までの生活歴を聞いたり、個人から希望や思いを聞き要望に応じられる様に努めている。必要に応じて個人対応もありえる。	入居時のアセスメントシートの活用や、日常の関わりの中で利用者からの思いや要望を聞き取り、ケース記録に記録して、一人ひとりの意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者の表情や行動から推し測って、職員で話し合い、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、過去の状況を職員に説明し、個別ファイルの閲覧も出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は申し送り、連絡帳を見る事で一日の過しかたを把握し次ぎへの支援に役立てている。自由に過してもらえるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意見を聞き、ケアプラン会議を持って介護計画を作成している。	毎月の職員会議の中で、カンファレンスを行い、利用者を担当する職員を中心にして、把握している利用者や家族の意向を参考に話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングし、利用者の状態に応じて見直しをして、現状に合わせた計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践。結果、気づきや工夫を個別ファイルに記入して活かしている。介護計画の目標を行った時はファイルに記入して見直しに役立て居る。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況判断をして柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	JA道の駅、スーパーに買い物に行き物を選び事を楽しみにしている。出来る限り一人ひとり対応したいが出来ていない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を利用してもらっているが家族の希望があればいつでも対応出来る。	家族の納得を得て、協力医療機関を主治医としている。週2回、併設施設に往診があり受診している。急変時には併設施設の看護師が対応している。他科の受診も支援して、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態を把握し看護師に報告・相談してスムーズに対応出来る体制を作っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	直接病院間関係者と相談する事はないが、家族を通して情報交換は出来ている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの生活が困難になった場合は家族と話し合い、同敷地内の特養入所を提案している。	契約時に重度化に対する事業所の対応について、家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合は、その都度、家族と話し合い、併設の施設への入所などの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回訓練を行っている。応急手当を行い速やかに看護師に相談している。職員はAEDの設置場所、使用方法を把握している。		
35	(15)	○事故病死の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	年1回訓練を行っている。吸引器の使用も職員全員が把握し救急の対応が出来る。	ヒヤリはっと報告書に記録し、対応策を話し合っ一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回、法人施設の看護師から、応急手当の研修を受けているが、全職員を対象にした、定期的な訓練の実施には至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの災害に合わせたマニュアルを作成し、毎月の避難訓練、夜間訓練を行い利用者の避難方法、避難経路を職員は把握している。地域の協力体制も整っている。	マニュアルがあり、年1回、法人全体で実施している火災を想定した避難訓練に参加している。毎月事業所内で、通報や避難訓練を実施している。職員が地域の消防団に所属する他、事業所の連絡網の中に、地域住民が加入しており、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パット交換、入浴時等は十分に気配りをしてプライバシーを損なわない様にしている。個々にあった対応、言葉掛けをしている。	職員会議で話し合っ確認し、馴れ合いにならないように、利用者に敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように気をつけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言われる希望(食事に対する。入浴に対する。利用者間の事。自分自身の事等)を出来るだけ聞いてあげる。又、自己決定が出来る様に支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを大切に生活してもらえる様に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。お化粧・おしゃれをされた時は「きれいね」の言葉を掛けてあげる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当番制で出来る手伝いをしてもらっているが、入所者で出来る方が少なくなってきた、時間的余裕がなかったりして充分には行えていない。が、簡単な台所仕事を手伝ってもらう。	三食とも事業所で食事づくりをしている。管理者(栄養士)が利用者の好みを取り入れた献立をつくり、季節感のある旬の食材を利用して、職員が調理している。利用者は、食材の買い物、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、ランチョンマット配り、下膳、食器洗いなど、一人ひとりのできる事を職員と一緒にしている。職員も同じ食卓を囲み同じものを食べ、会話を弾ませて、利用者の食事の時間が楽しめるように支援している。行事食や、外出時は弁当をつくって出かけるなどの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量・好みを調整している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、起床時に行っている。自分でしっかり歯磨き出来ない方は介助している。毎食後は出来ていない。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	支援を行っている。紙パンツ使用の利用者に対して布パンツ対応しながら自立への支援を行っている。時間的誘導も行っている。	日常生活記録表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけて様子観察を行っている。便秘の薬も使用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日入浴可能。入浴順番は当番が利用者の状況判断しながら決めている。	入浴は毎日14時から17時まで可能で、利用者の希望や状態、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息したり出来る様に支援している。就寝時の室温管理にも気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬管理簿を作成していつでも閲覧でき、確認できる様にしている。服薬管理は職員が行い症状の変化等は直ぐ看護師に連絡する。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を活かした役割(台所仕事、野菜の収穫、洗濯物干したたみ、こまごました手仕事等)分担の達成感。希望の嗜好品等の直ぐ対応出来る事は行っている。今は皆さん好きな歌を歌うことに楽しみを見出しています。	新聞を読む、テレビ視聴、ぬり絵、カラオケ、チューリップコーラス(利用者と職員)として名前をつけ行事の時に歌を披露する、野菜の収穫、切り干し大根づくり、花の水やり、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事づくり、後片付け、ゴミ袋への名前書きなど、一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人散歩希望される利用者の方には安全面に気配りしながら行ってもらっている。四季折々の外出行事を計画し、家族、ボランティアの方々に協力をお願いし、日々の生活に張りが持てる様に配慮している。	散歩や買い物に行くほか、毎月弁当(手づくり)を持参してドライブに出かけている。年1回、家族やボランティアの参加を得て、日帰り旅行を行うなど、戸外へ出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金の所持はされていない。買い物に行った時には自分で好みの物が購入できる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分に行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫はされているが、個人的に不快に感じている利用者もある。トイレの前の部屋の方で夜間トイレ回数の多い方に対してうさいと不満。足音のしない履物交換・夜間のみエアータオル廃止(布タオル使用)ふたを閉めない等の対策をとっている。	季節に合わせた飾り(貼り絵)を利用者と一緒に作り、壁面に飾ったり、季節の花を生けて、季節感があるように配慮している。調理の音や匂いがして生活感もある。湿度、温度、光、音、換気にも配慮し、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでもお互いの室を訪問し合っのんびり過せる様に配慮している。ホール内に3箇所置いてある好きな椅子の所で会話を楽しんでいる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染の品を持参してもらっている。自室の品々の配置等は本人が家族と行っている。	使い慣れたタンスや家具、生活用品を持ちこみ、家族の写真や花を飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	楽しく自立した生活が送れる工夫・支援を行っている。		